

# 長浜まちやウォークラリー この味 このまち この文化

～郷土の食文化にふれ、まちや人とふれあう寄港地での活動と船内活動をつなぐ実践研究～

## 航海の特色

長浜曳山祭りでは、子ども歌舞伎が曳山の上で演じられ、各家庭でのお客様をもてなす「ご馳走」には郷土食がふんだんに登場する。

本航海では、長浜の祭文化と食文化にふれる場として長浜まちやウォークラリーを設定し、「ご馳走」のひとつ「焼鯖そうめん」に舌鼓をうつ学習を取り入れる。また、2日目の朝食に登場する郷土食を味わい、びわ湖環境学習の一つとして「私にとっての郷土食」の表現活動を行う。

これらの活動を通して、地域の人および地域の人が大切に守っている食文化やまちなどについて見つめ直すことができる。

## (1) 航路

<1日目>

琵琶湖大橋港-----南湖-----多景島-----長浜港  
10:00発 (12:30) 13:30着

<2日目>

長浜港-----竹生島港-----白石-----琵琶湖大橋港  
8:00発 9:00着 10:00発 (13:10) 15:00着

## (2) 展開事例

### フローティングスクールでの学習

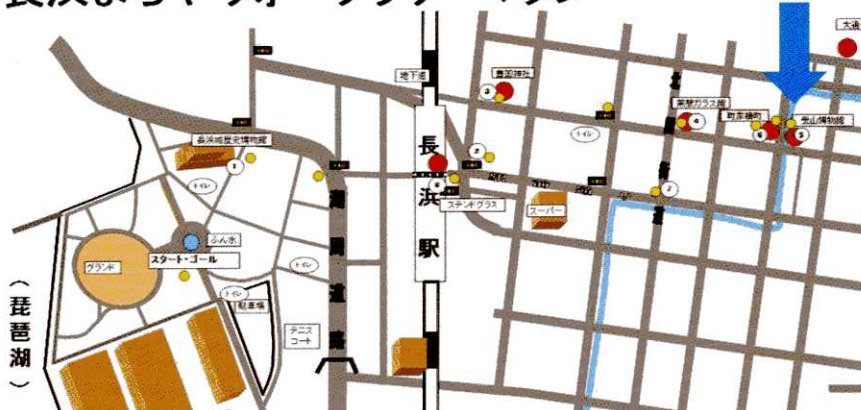
ふれあい体験学習<1日目 13:45～16:00>

#### ◎長浜まちやウォークラリー

- ・ポイントをまわり、町並み、祭りや郷土食にふれる。
- ・曳山祭りのご馳走の説明を聞き、郷土食「焼鯖そうめん」を知る。

曳山博物館見学、  
郷土食試食

### 長浜まちやウォークラリーマップ



#### ◎食育タイムⅡ（食堂）<1日目夕食時>

- ・環境こだわり米や地産地消の説明を聞き、郷土食への理解を深める。

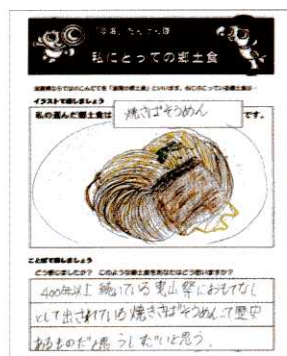
#### ◎食育タイムⅢ（食堂）<2日目朝食時>

- ・朝食を味わう。郷土食を確かめ合いながらいただく。

### びわ湖環境学習（学習室）<2日目10:15～11:45・30分ずつ3ローテーション>

#### ◎「私にとっての郷土食」

- ・郷土食についての自分の考えを持ち、交流する。



学習プリント

### (3) 活動の様子

曳山祭りのご馳走の説明を聞き、郷土食「焼鯖そうめん」を知る。



もてなしの心で料理を作る。

実際に郷土食を口にして、その味わいを楽しむ。



焼鯖そうめんを試食する。

郷土食についての自分の考えを持ち、交流する。



郷土食をどう考えますか。



焼鯖は昔の保存の知恵です。



郷土食豊かな朝食を味わう。



仲間の考えに学ぶ。

#### 【児童の声】

- ・(焼鯖そうめん)400年以上続いている曳山祭におもてなしとして出されている焼鯖そうめんって歴史あるものだと思うし、すごいと思います。
- ・(焼鯖そうめん)昨日、焼鯖そうめんを食べてすごくおいしいと思いました。鯖と同じ味のめんが口の中に入って行ってあまくてすごくおいしかったです。感触も心地よかったですし滋養の郷土食にふさわしいなと思いました。
- ・(えび豆)えび豆は、私の好みと合っていてとてもおいしかったですし、昔から伝わっているということなのでよくお正月のおせち料理に入っています。これからもこういう郷土食を大切にしたいです。
- ・(赤こんにゃく)この料理は、ほくのひいおばあちゃんが好きだから、ほくも好きになりました。いつも帰ると作ってくれます。赤こんにゃくはおいしいです。

#### 【指導者の声】

- ・お祭りと言えばほとんどの児童がみこしをかつくことを想像する。児童の住んでいる地域では親戚の人を招待しておもてなしをする家庭もごくわずか。曳山祭りのように盛大に、しかもご馳走で人々をもてなすという伝統を知って湖北地域の人々の心意気を感じたのではないかと思う。試食させていただいた「焼鯖そうめん」は児童に大好評で年一回のお祭りにたくさんのご馳走をいただく喜びを名実ともに実感できた。
- ・郷土食は、子どもの印象として地味なイメージがあり、ふだん食べ慣れないものであれば嫌う子もあるが、地域の人々が大切に守っている食文化について改めて見つめ直すことで、自分の住んでいる滋賀県の人々の郷土愛にふれることができた。頭での理解と実際に食する機会が与えられることでその食材に愛着を持ち、行く行くはその郷土食を守る担い手になっていくことと感ずる。

#### 【指導上の留意点】

- ・本航海では郷土食の試食で「滋養の食事文化研究会」の方々に協力いただいた。教育効果をより高めるために事前に十分な打合せが必要である。
- ・「湖の子」給食には、滋賀県産の食材や郷土食がふんだんに使われている。より味わって食べたり、郷土食への理解を図ったりするために、夕食時に適宜解説を加える。(食育タイムⅡ)
- ・児童がことごとらをつないで、自分の考えを確かなものにしていくことができるよう、寄港地での活動と食育タイム、船内での学習活動を連続した一連の学習として設定する。
- ・自分の考えを深めたり、確かめたりできるよう、イラストや文で表現したものを読み合う活動を大切にする。